



花園大学



同窓会通信



CONTENTS

大学ニュース	2
同窓会ニュース	7
「お元気ですか」	8
部活紹介	10

学長ご挨拶

学長 磯田 文雄



日頃、花園大学の教育研究の充実発展のためにご支援いただいておりますことを厚くお礼申し上げます。

去る2025年12月に公表されました学校基本調査によりますと、高校卒業生の大学・短期大学進学率は、全国では61.4%で昨年度の60.7%から0.7%増加しています。京都府は74.5%で昨年度の74.0%から0.5%増加しています。大学進学率の増加傾向はとどまるところを知りません。大学学部の在学者数は、264万6千人で、前年度より1万8千人増加し、過去最多です。

このように全国的に大学進学者が増加傾向の中で、花園大学の昨年4月の入学者数は264人に終わっています。その原因は、中堅の大規模大学が、これまでよりも3ランクも4ランクも偏差値を下げ、前年度よりかなり多くの合格者を出したこと、及び、合否判定結果の公表は11月1日以降との政府の方針に反し、少なからずの大学が、10月以前に合否結果を公表したからであることは、同窓会通信2025年9月号でご報告させていただいたところです。

現在、大学内では、入学者選抜の更なる改善と大学教育の質向上のための取り組みを進めています。

入学者選抜の改善については、改めて高等学校関係者の意見を聴取し、高大連携の観点から方策を検討しています。本年1月16日には、令和7年度近畿地区高等学校総合学科教育研究大会が本校で開催され、私の方から、初等中等教育の基本理念である「生きる力」や総合学科創設の趣旨、学習指導要領改訂の検討状況についてお話ししました。また、1月26日には、京都府立京都すばる高等学校長の貴島良介先生に来校いただき、教員を対象としたFD研修で、高大接続の取り組み及び高大接続への期待についてお話しいただきました。このように高等学校と意見交換を重ねる中で、入学者選抜改善の方向性が見えてきたように思います。

選ばれる大学になるためには、大学教育の質の向上が基本です。教員採用については、国際公募を基本とし、男女共同参画の宣言、外部委員を入れた公平な審査を行っています。これまで、東京大学、京都大学、東京学芸大学、滋賀大学、京都教育大学、兵庫教育大学、桜美林大学、駒澤大学、京都外国語大学の先生方にご参加いただきました。2022年度から2025年度までの間に45名のベテラン教員等が退職し、38名の若手を中心とした教員が採用されています。非常勤講師についても、契約継続及び新規採用のための審査を行うとともに、その数を2014年度の286名から2024年度の143名へと半減させました。

教育課程については、毎年度9月から2カ月にわたり各学科、専攻科の責任者と意見交換を重ね、改善に取り組んでいます。その結果、教育課程の内容の転換が生まれ、今後の改革の方向性が明確化されたりしています。研究については科学研究費が基本ということで、学内研究については科研費採択に必要な支援をしています。

今後とも、入学者選抜の改善と教育の質の向上に全力で取り組んでいきます。

2026 (令和8) 年4月 開設 教育学部 初等教育学科

2026年4月開設を目指し設置認可申請を進めてきました教育学部 初等教育学科につきまして、
2025年10月28日文科科学大臣より設置認可を受けました。

これにより、2026年4月開設が確定いたしました。

すべての子どもとともに学び合い、
成長し続けられる教員を、
現場での実践型指導で育成します。

教育学部 初等教育学科は、小学校教育コースと幼児教育コースの2コースで構成されています。

小学校教育コース

小学校教員を目指すコースです。
教員になるための知識と技能を習得
します。1回生時から学校現場での
体験を実施し、4年間かけて知識・技
能・自信を深めます。
幼稚園教諭免許も取得可能です。

幼児教育コース

幼稚園教諭と保育士を目指すコース
です。
教育者や保育士になるための知識と
技能を習得します。近隣の幼稚園、保
育施設で実践的な経験を積み、子ど
もの特性に応じた、多様な指導力を
身に付けていきます。

取得できる資格	小学校教育コース	幼児教育コース
小学校教諭一種免許状	○ (注1)	—
幼稚園教諭一種免許状	○	○
保育士資格	—	○
特別支援学校教諭一種免許状	○ (注2)	○ (注2)

(注1) 小学校教育コースは小学校教諭一種免許状取得が卒業要件となります。

(注2) 特別支援学校教諭一種免許状 (知・肢・病) 単独の取得は出来ません。基礎免許として、

(注2) 小学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状の取得が必要となります。

前期学位記授与式

猛暑も落ち着き、秋の気配が感じられるようになった9月25日(木)、教堂ホールにて2025年度前期学位記授与式を挙行了ました。

学部生16名が卒業し、磯田文雄学長から一人ひとりに学位記が手渡されました。

磯田学長は「困ったことがあったら書を読もう。学問をしよう。学問は研究を通してそれまでの命題を批判的に検討し、新しい枠組みを提案する普遍性を有しています。大学で学んだ書を引っ張り出して読み直してください。また、新しい学問を紐解いてください。学問がいつまでも皆さんを守ってくれることを祈っています。」と式辞を述べられました。

引き続き、松田隆行文学部長、梅木真寿郎社会福祉学部長が卒業生に向けての言葉を贈られました。

続いて、卒業生を代表して、社会福祉学部臨床心理学科 菱田勇仁さんが「大学生活は終わり、これから私たちは新しい生活に向け、新たな一歩を踏み出します。時には壁にぶつかり、挫折するかもしれませんが、今までの経験を胸に、どんな困難にも立ち向かって、頑張っていきたいと思います。」と謝辞を述べました。

式典終了後、学長を始めとする大学執行部の先生方と和やかな雰囲気での記念写真を撮りました。

卒業生の皆さんの今後の益々のご活躍を祈念しております。



大学摂心

2025年10月10日(金)に、今年度の大学摂心を実施しました。今年度は昨年度同様「参加しやすい大学摂心」を目指し、開講日の平日に開催しました。また、学生個々の時間割に合わせて自由に参加できるように授業時間帯ごとに内容を区切りました。内容としては、講義である基礎禅学・実践禅学とコラボして横田総長の法話の拝聴や坐禅を行いました。延べ参加者は約50名となり、充実した時間を過ごすことができました。

坐禅終了後には、横田総長と大学摂心に参加した学生との交流会があり、学生たちには総長と直接話せる貴重な機会となりました。



人権週間報告

第39回花園大学人権週間報告

2025年度の人権週間を以下のとおり開催しました。12月8日の前夜祭では映画『夢みる小学校 完結編』を上映しました。翌9日からは3日間にわたり、NPO法人エンパワメントアフロッキー代表理事の望月理子さん、理事の早川誠子さんから『自分らしく生きていますか?一緒に考えてみよう!～デートDV予防講座を通して人権について学ぶ～』、リカバリハウスいちごで生活支援員・介護福祉士をされている渡邊洋次郎さんから『依存症からのリカバリー～依存者それぞれの物語』、最後に関西学院大学法学部教授・富田宏治さん『被爆80年:核抑止との決別を一核兵器禁止条約を「希望の光」として一』、京都原水爆被災者懇談会世話人・花垣ルミさん『被団協へのノーベル平和賞授賞式に参加して』の3つの講演会を開催しました。

人権週間は「知ることから」を大きなテーマに掲げて開催をしていますが、今回は映画、前半2本の講演の中で、期せずして共通するテーマが見えてきました。それは、「自分らしく、ありのままに生きること」の大切さです。それは人を否定しないこと、ありのままに受け入れることでもあり、それが自分も人も大切にすることにつながるといことです。それぞれ取り上げる内容は違えども、その根底にある大切なものは同じであるのだと思います。そして最後に、ありのままに生きられない状況をつくるのが戦争であると思います。人の尊厳を根こそぎ奪う戦争をこの世界からなくすこと、そのことを切に願って、4日間の第39回花園大学人権週間の幕を閉じました。



進路サポート課

就職環境の変化に対応し、多彩な支援を展開 — HANAZONO就職フェスを開催 —

近年の学生の就職活動は、「売り手市場」「早期選考」「長期化」「多様化」といった傾向が一層強まっています。こうした状況を踏まえ、進路サポート課では、常に新たな取り組みを検討し、企画・実行することを大切にしています。

2月3日(火)から5日(木)にかけては、『HANAZONO就職フェス』を開催しました。期間中は、「就活マナー講座」や「求人票の見方講座」、新たな取り組みとして芸人をゲストに呼び「コントで学ぶ!就活スタートの極意」を実施したほか、公的サポート機関を含む、本学学生への採用意欲の高い多くの企業・福祉団体に来校いただき、「学内合同就職説明会」を開催しました。さらに、就職活動を後押しする取り組みとして、「就活写真撮影会」も学内で実施しました。

この3日間はスーツ着用で参加した学生たち、説明会ではメモを取りながら前のめりで熱心に話を聴く姿が見られました。主に3回生が参加する一方で、1・2回生の参加も多く見られ、早い段階から就職活動への準備を始めようとする低回生が年々増加している様子うかがえました。

また、2回生を対象とした必修の基礎教育科目「学びのナビゲーション:進路を考える」と連携し、全15コマのうち4コマを進路サポート課の講座として実施しています。そのうち1コマでは、企業・団体の採用担当者の皆さまをお招きし、「働くこと」や「仕事・進路の選び方」をテーマに、採用担当者の視点から見た就職活動や社会に出るための準備について、パネルディスカッション形式の講義を行いました。

本講義を通して、学生が特定の業界や職種にとらわれることなく、多様な価値観や働き方に触れながら、自身の将来や進路をより広い視野で考えるきっかけを得ることを目的としています。



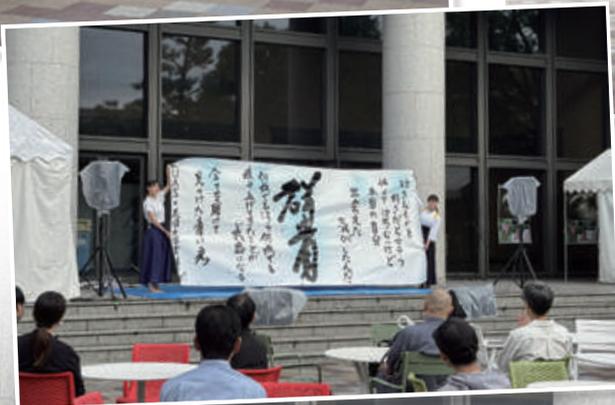
学園祭

今年度の学園祭「京花祭」は「京花開宴～花の園の夢祭り～」と題し、10月18日(土)・19日(日)の2日間にわたり開催いたしました。昨年まではメインステージが西小路を背にしていたのですが、今年度は、メイン会場を無聖館前に移し、無聖館入口や自適館1Fをステージとして各パフォーマンスや催しを行いました。

1日目は、京都女子大学アイドルコピーダンスサークル「cotton candy」によるダンス、京都先端科学大学と花園大学合同の吹奏楽部演奏、京都のフラスタジオ「Makana A Ke Aloha」によるフラダンス、2日目は本学書道コースの学生と京都先端科学大学附属高等学校の生徒による書道パフォーマンス、カレッジフェスタコレクションによる音楽ライブ、最後に恒例の花大抽選会2025で幕を閉じました。

露店や学内企画はスポーツ系・文化系サークル等によるものに加え、ゼミや事務局からも数多く出店されました。外部露店も2日間で6店舗が入れ替わりで出店され賑わいました。今年度は2回生を中心として上回生の少ない中で運営を行っていましたが、無事に終わることが出来ました。

京花祭の開催を支えてくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。



同窓会ニュース

令和7年度 佐賀県支部総会報告

令和7(2025)年11月28日(金)武雄市「湯元荘 東洋館」にて令和7年度の佐賀支部総会を開催致しました。会員13名の参加と花園大学より鷲阪宗寛氏(花園大学総務部長)、坂ノ下祐大氏(花園大学同窓会事務局)のご臨席を賜りました。中園博道氏(支部長)より全国支部長会の報告もあり、会中は会員より忌憚のない意見、質問等があり有意義な総会になりました。また、大学より近況報告をご丁寧に説明していただきました。花園大学も新たな学部の試み、奨学金のしくみを詳しくご説明していただき、花園大学の同窓生として嬉しく思いました。

これからも佐賀支部の皆様、たくさん参加していただけるように同窓会を盛り上げていきたいと思っております。来年の再会を祈念して閉会いたしました。

事務局長 古賀 俊史



令和7年度 三重県支部総会報告

花園大学同窓会三重県支部では、令和7年11月7日(金)午後6時より、ホテルグリーンパーク津において、会員8名が参加し、大学事務局より福富進路部長・坂ノ下事務員にお来しいたいただき、令和7年度支部総会を開催した。

挨拶として、村山支部長より新支部長就任のご報告、続いて福富進路部長より大学の近況報告がなされた後、議事に入った。

議事は令和6年度会計決算報告・監査報告がされ承認された。

次に花園大学の坂ノ下事務員より、現在の三重支部管内の在学生の報告がなされ、4回生3名・1回生1名、計4名が在籍中と説明された。

次に役員事務費についての議事に入り、役員への事務費支給について、役員会で了承されたとの報告があった。

その他として、花園大学の、成績優秀者や血縁者を対象にした学費や入学金の免除制度について話題が上がった。

議事終了に引き続き、懇親会を行い、会員相互の親睦を深め、大学歌を斉唱し記念撮影をもって総会を終了した。

次回の盛会を祈念いたします。

三重県支部 松尾 一秀



令和7年度 兵庫西支部総会報告

花園大学同窓会兵庫西支部総会を磯田文雄学長様坂ノ下祐大総務課主任様ご臨席のもと1月20日姫路市内で開催いたしました。本会は二年に一度の開催としており案内も花園大学同窓会通信のWeb上での広報のみとしておりましたが18名のご参加をいただきました。

宗門の行事等よく顔を合わせる方も多くおられました、卒業以来お会いしてなかった方も来てくださり部活動や共通の友人の話題など懐かしい話で旧交を温め楽しい時間を過ごすことが出来ました。次回は、最近にご卒業された若い方にもご参加いただけますよう努めたいと思っております。



兵庫西支部長 越智 宏明

いつもなつかしい母校の様子をお知らせ下さいまして、ありがとうございます。

同窓会通信を拝読するたび、月日の流れを感じつつ、若き日々を思い出します。

私にとって花園大学で過ごした4年間は素晴らしい日々でした。友人・先輩・後輩そして人生の師と出会い、様々な学びと心の栄養をいただくことができました。

そのような日々があったからこそ、今があると思えます。

母校を誇りに思えるから、どのようなことがあっても、根本から崩れることはありません。卒業しても、大切にして下さる恩師・縁の続いている人々…。人とのあたたかいつながり…感謝の気持ちでいっぱいです。

先日、花園大学の事を駅に近くて美しい大学と紹介されていると聞きました。

花園大学の良さがあらゆる人に届き、入学する人が絶えることなく、益々発展していくことを祈っています。

藤崎 潤子 様 (1992年度文学部社会福祉学科 卒業)

花園大学硬式庭球部 創部45周年記念祝賀会を開催しました！

10月4日(土)、花園会館にて、花園大学硬式庭球部の創部45周年記念祝賀会を開催しました。当日は、初代メンバーから現役部員まで、総勢80名を超えるOB・OG・現役が集まり、久しぶりの再会に会場は終始にぎやかな雰囲気にも包まれました。

会場には、歴代の部旗をはじめ、オリジナルチームトレーナーやテニスラケット、写真アルバムなど、思い出が詰まったメモリアルグッズを展示。事前に提供いただいた写真を編集した記念動画が上映されると、「懐かしい!」という声があちこちから聞こえ、思い出話に花が咲き、気がつけば時間を忘れて語り合っていました。

また、祝賀会当日と翌日の日中にはなつかしい花園大学テニスコートに集合。あいにくの雨模様でしたが、そんな天気も気にならないほど、OB・OG・現役が入り混じって楽しくボールを打ち合いました。世代を越えてラケットを握る姿に、庭球部ならではのつながりを改めて感じるひとときとなりました。

今回、残念ながら参加できなかった皆さま、5年後には50周年記念行事を予定しています。次回はぜひ、コートや会場でお会いしましょう！

花園大学硬式庭球部45周年実行委員会

《お願い》 ご卒業後、お名前や住所変更等で十分に情報をお届けできていない方が多くいらっしゃいます。

変更がございましたら、下記メールアドレスまでご連絡ください。

※花園大学硬式庭球部OB・OG会メールアドレス: hanazonotennis1980@gmail.com



令和7年 同窓会開催のご報告と来年のご案内

この度、令和7年10月4日に、昭和34年度入学者の同窓会を開催いたしました。

永きにわたり、本同窓会は毎年地方にて開催しておりましたが、近年は花園会館を会場とし、皆様の再会を祝す場としております。

入学当時は44名の皆様が在籍されましたが、時の流れと共に、現在はその半数となりました。しかしながら、寺庭様方も毎回ご出席くださり、当時の思い出を語り合いながら、深い旧交を温めることができいております。

年々、永遠のお別れが増えることは、自然の摂理と理解しつつも、やはり寂しく、辛いことでございます。

さて、来年の同窓会は、令和8年10月5日を予定しております。

皆様との再会を心より楽しみにしております。



出席者

青源寺	生玉 道雄	曹源寺	原田 正道
大林寺	越智 恵美子		藤田 忠良
永昌寺	中原 泰子	佛南寺	渡辺 敏彦
浄円寺	馬場 紀昭・有子	清水寺	森 清範・千恵子
常照皇寺	堀本 太虚・ひみ子		
	前田 廣心	事務局	大谷・前田・渡辺・森
福圓寺	大谷 昌弘		(事務 清水寺 中西)
金龍寺	塚本 昌訓		

「おかえりコンサート」を終えて思うこと

昨年12月20日(土)に大学の教堂をお借りして、邦楽部と邦楽部OB会との共催で「おかえりコンサート」を実施しました。このきっかけは、OB会懇親会の席上で現在の邦楽部の活動が低迷していると聞き及んだことでした。OB会として何か手伝えることはないか、我々の共通項は邦楽だ、コンサートで現役生を励まそう、できれば新入部員の獲得につながれば…と、このような運びで開催に漕ぎ着けた次第。演奏者は23名、ステージスタッフを申し出てくれたのが5名、現役生から昭和48年卒生まで半世紀にまたがる年代からの参加でした。当日の会場には過去の定期演奏会のパンフレットや写真なども展示され、ちょっとしたホームカミングデイの様相を呈してました。6月のOB会で発案され、9月に企画が具体化して12月の本番です。この短期間によく実現できたものです。ひとえに企画立案とマネージメントに尽力していただいた伴夫妻と喜多村恭子さんのお陰でした、お三方には感謝し尽くせません。

さて、このイベントを通じて抱いた所感をひとつ。

部活動のOB会は同窓会とは異なる親密感があります。この違いは一体何でしょう。例えば友人と知人との違い?または家族と同僚との違い?

部活動の意義は、学部や学年を跨いで同じ目標をもって活動するところにあります。ことに邦楽部は(今もその伝統は残っていると信じているのですが)、先輩後輩の区別はあってもそれが直ちに上下関係とはならず、音楽のこともそれ以外のことも自由に議論できたものです。意見の齟齬があってもそれが関係の断絶にはならない、その緩さが邦楽部の良いところでした。

なにせよ、学生時代は社会に出るまでの猶予期間、その間に専門知識を学び社会に出るためのスキルを獲得することが最大の目標になります。そんな中での部活動は、大学から見れば課外活動、余暇活動に過ぎないでしょう。でも学生の立場からは、一種のアジールとして機能します。聖域であり隠れ家であり避難場所でもある。ヒトの生活が家の内と外とで成り立っているように、学生もアジールがあってこそ学問にも励むことができる。経験的にそう思います。だからこそ、大学には部活動への支援をお願いしたいのです。大学の広報活動のためではなく、学生の福利厚生のために。

邦楽部OB会世話人代表 臼井喜法



部活紹介

ラグビー部

昨年度、関西大学Bリーグから降格してしまい、今年度はCリーグでのスタートとなりました。今年度も昨年度と同様に部員不足が課題となり、試合形式の練習が困難だったため、基礎練習を中心に行う状況が続きました。春のオープン戦では、序盤こそ思うような結果が出せませんでしたが、試合を重ねるごとに内容も良くなり、昨年度よりも良い状態で夏合宿に臨むことができました。

猛暑の中での走り込みに加え、合宿でもさらに練習を重ね、練習試合にも励みました。しかし、格上のチームとの対戦で人が出てしまい、思うような結果を残せないまま、不安を抱えてシーズン本番を迎えることになりました。

リーグ戦開幕後、負傷者の続出により本職ではないポジションで出場する選手もいました。そのような状況でも勝利を積み重ね、一戦一戦を勝ち抜いた結果、全勝でリーグ戦を完走。Cリーグ全勝優勝という形でBリーグとの入れ替え戦に臨みました。上位リーグの壁は厚く、惜しくも敗退となりましたが、この悔しさを糧に次年度もCリーグから再出発します。次年度はリーグ編成の影響で、Bリーグから降格した4チームがCリーグに加わります。さらに、チームを支えたトンガ留学生も卒業（引退）するため、これまで以上に厳しい戦いが予想されます。選手たちと一丸となり、一つでも多くの勝利をつかみ取れるよう全力を尽くします。



新体操部

同窓生の皆様、いつも花園大学新体操部へのご支援ありがとうございます。また無事に1年間、新体操部が活動できたのも皆様の応援のおかげです。ありがとうございました。

今年は新1年生に女子5名、男子2名が加わり、女子は久しぶりに団体でBチームを組むことができました。試合で2チーム出場させてもらうことで練習にも緊張感が生まれましたが、何より試合までの間切磋琢磨し、お互いの良いところが見える、良い機会となりました。男子団体は久しぶりにJAPANで決勝に進出することができ、5位入賞することができました。練習では【自主性】を大切に、チーム内で練習について、チームについて何度も考え話し合い自分たちの新体操を追求することができました。

また、今年は女子1名、男子2名が4回生として新体操部を引っ張り続けてくれました。花園大学新体操部として踊る最後の発表会では多くの方に見に来て頂きました。

まだまだ先輩方が築き上げてきた結果に届いていませんが、ひたむきに素直に、新体操と向き合っていけるチームを目指して頑張ります。



硬式野球部

硬式野球部は、新しく指導者に高津佐助監督を迎え、春季リーグ戦に挑みました。初戦の明治医療大学で勝ち点を落としたのち優勝の行方を左右する佛教大学戦に臨みました。接戦になったものの力及ばず、その後全勝しましたが2位でリーグ戦を終えました。

6月に行われた関西オールスター5リーグ対抗戦は、本学から選出された5名の活躍もあり、所属する京滋大学野球連盟が27年ぶりに優勝を果たしました。自分たちの野球のレベルは、他のリーグと対等に戦うことが出来ると自信をつけた大会でした。

7月にはさらに越智コーチを指導者に迎え、秋季リーグ戦に臨みましたが、大谷大学に1敗、また京都先端科学大学、佛教大学に勝ち点を落とし、春季リーグに続き、2位でリーグ戦を終えました。他大学も力をつけ、拮抗した試合の連続でしたが好機に決定打が少なく、勝利への執念、試合運びなどに課題が残るリーグ戦でした。

また、2025年は花園大学初のプロ野球選手が誕生しました。藤原聡大投手（水口高）が10月23日のドラフト会議にて楽天ゴールデンイーグルスから単独1位指名。返照館で行われたパブリックビューイングには部員とともに210名の大学関係者が詰めかけ、花園大学初のNPB選手誕生の瞬間を祝福しました。チームメイトがプロ野球選手になる。目標を明確にして練習に励み、自分と戦いながらプレーする姿に、幼いころからの夢が叶うかもしれないと思った学生も多いのではないのでしょうか。今後の藤原選手を応援する気持ちと後輩たちからもさらに努力をしようとする意気込みが伝わってきた瞬間でした。

今年も宮崎県日南市で行う合宿を通してチーム力をさらに引き上げ、球春が到来する時期には新入生を迎えます。

リーグ優勝、全日本大学野球選手権ベスト8を目指します。皆様のさらなるご声援をよろしくお願いいたします。



お知らせ

現在、「花園大学硬式野球部後援会」の設立に向けて準備を進めております。
つきましては、母校の躍進を支えるべく、
同窓生の皆様にもぜひ温かいご支援を賜りたく存じます。
詳細が決まり次第、改めてご案内させていただきます。
何卒よろしくお願い申し上げます。

花園大学初の プロ野球選手誕生！

東北楽天ゴールデンイーグルス
2025年ドラフト1位指名

藤原 聡大さん

2022年 京滋大学リーグ秋季1部 新人賞
2024年 京滋大学リーグ秋季1部 連盟特別賞
2025年 京滋大学リーグ秋季1部 敢闘賞



©Rakuten Eagles

花園大学を選んだ理由は？

正直なところ進路については迷っていましたが、そんな中、決断のきっかけとなったのは奥本監督の熱心な勧誘です。「全国を目指す！」という力強い言葉に心を動かされ、最後は迷いなく花園大学で野球を続けることを決めました。

プロを意識し始めたのはいつ頃？

プロは入学前から目標として掲げていましたが、真の意味で意識し始めたのは1年生の冬です。当初は大学生活を楽しみつつ野球にも励もうという気持ちでしたが、本気でプロを目指す先輩方と練習を共にする中で、自分自身の覚悟が決まりました。そこからは、生活のすべてを野球中心に据えるほど、向き合い方が大きく変わりました。

花園大学で学んだことの中で、特に印象に残っていることは？

一番はやはり部活動ですね。野球を通じて人間として大きく成長できましたし、何よりかけがえない仲間と出会い、人との繋がりの大切さを肌で感じることができました。また、学業では社会福祉を専攻したのですが、そこで学んだのは私が大切にしている「他喜力(たきりょく)」という言葉に通じているということです。福祉は、支援を必要とする方だけでなく、そのご家族や周囲の方々まで笑顔にできる素晴らしい分野です。野球でも福祉のように誰かを喜ばせることができる力を発揮していきたいと強く思っています。

ドラフト指名を受けたときの気持ちと、これまでの努力で一番誇れることは？

指名の瞬間は、何よりも「安心した」という気持ちが一番に込み上げました。野球を始めたあの日の夢が、いつしか明確な目標へと変わっていき、ついにそれを叶えることができたんだと。支えてくださった多くの方々への感謝でいっぱいです。これまで周囲に流されず、自分の信じた道を一步一步進み重ねてきたこと。その信念の強さだけは、胸を張って誇れると思っています。

今後の目標

「無駄な積み重ねはない」という信念を胸に、球速などの数字以上に「勝てるピッチャー」であることにこだわり、多くの人々から応援されるプロ野球選手を目指します。



©Rakuten Eagles

ホームページ、ツイッター、インスタグラムでも大学の情報を発信しております。



花園大学同窓会
ホームページ



花園大学
公式ホームページ



花園大学 同窓会通信 112号 2026.3 発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

同窓会事務局

電話 (075) 279-3630 (直)

F A X (075) 823-2412 (直)

E-mail dousou-h@hanazono.ac.jp